

きっずプラスグループ 支援プログラム



「支援」を行う環境を大まかに分けると「発達支援」・「家族支援」・「地域支援」の3つからなります。個々のニーズに対して、支援ごとの「ねらい（目的や目標）」を達成するために、必要な「支援内容」を具体的に提供していきながら総合的に支援を行います。

発達支援は児童に提供される支援ですが、「本人支援」と「移行支援」に分かれます。

本人支援の5領域

きっずプラスでは発達の5領域に対応した支援を行っています。
5領域はそれぞれが独立しているわけではなく相互に関連し重なっています。

- ① 健康・生活
- ② 運動・感覚
- ③ 認知・行動
- ④ 言語・コミュニケーション
- ⑤ 人間関係・社会性



① 健康・生活

【ねらい】

- 健康状態の維持・改善
- 生活のリズムや生活習慣の形成
- 基本的な生活スキルの獲得

【支援内容】

●健康状態の把握

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。

●健康の増進

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。

●リハビリテーションの実施

日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもの適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。

●基本的な生活スキルの獲得

身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。

●構造化等により生活環境を整える

生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。

きっずプラスで行っている支援プログラム

定期的な心身の把握

登園時の体温測定（学校休業日は午後にも行う）と支援中の健康観察

手洗いの習慣

登園時及び排泄後、食事前での支援

衣服の着脱、たたみ方

登園後の着替え時、排泄時の支援

排泄支援

排泄時の支援

トイレ・洗面台等共同で使う場所の正しい使い方

排泄時、手洗い時の支援

道具の使い方（おはし、スプーン、ハサミ、鉛筆等）

個別療育・グループ療育・昼食・おやつ時の支援

食育（調理実習・野菜の苗植え→収穫→調理）※一部教室で実施しております。

グループ療育での支援

行動の切り替え

個別療育・グループ療育、自由遊び時等別の活動へ移る時に支援

部屋の構造化、掲示物や子どもへの支持

環境を整備し絵カードや写真、イラストを利用する

その他にも様々な生活スキルトレーニングを行っています

あいさつ・おかたづけ・ボタンの留め外し・ファスナーの開閉・食器洗い・アイロンがけ・施設内掃除・自分の荷物の管理・他

② 運動・感覚

【ねらい】

- 姿勢と運動・動作の向上
- 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
- 保有する感覚の総合的な活用

【支援内容】

●姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

●姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。

●身体の移動能力の向上

自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。

●保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

●感覚の補助及び代行手段の活用

保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。

●感覚の特性(感覚の過敏や鈍麻)への対応

感覚や認知の特性(感覚の過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。

きっずプラスで行っている支援プログラム

運動療育（グループ療育での支援）

- 粗大運動（サーキット運動・バランストレーニング等）
- ボールを使った運動（投げ方、受け方、蹴り方等）

ビジョントレーニング

- 運動療育時に支援

感覚統合トレーニング

- 運動療育時に支援

微細運動（個別療育・グループ療育での支援）

- ひも通し・型はめ・ボタンの留め外し・お箸の使い方

音楽療育（グループ療育での支援）※一部教室で実施しております。

- ミュージックケア
- 打楽器の学習
- 手話ソング
- 英語の手遊び等

制作活動（個別療育・グループ療育での支援）

- 絵の具やクレヨン、マジックを使い絵を描く・紙を折る・切る・ちぎる・貼り合わせる・編む・縫う等

感触遊び（個別療育・グループ療育での支援）

- スライム、ナノテープ風船を作って遊ぶ・砂粘土遊び・セントサリーマットで足裏の刺激等

③ 認知・行動

【ねらい】

- 認知の発達と行動の習得
- 空間・時間、数等の概念形成の習得
- 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

【支援内容】

●感覚や認知の活用

視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。

●知覚から行動への認知過程の発達

環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。

●認知や行動の手掛かりとなる概念の形成物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。

●数量、大小、色等の習得 数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。

●認知の偏りへの対応

認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

●行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。

きっすプラスで行っている支援プログラム

天気・日付の確認

はじまりの会での支援

1日の時間割の確認

はじまりの会での支援

散歩（交通ルールを守り安全に歩く）

グループ療育での支援

ルールを理解する遊び

グループ療育・レクリエーションでの支援

かるた・カードゲーム・ことばスゴロク

グループ療育・レクリエーションでの支援

型はめ・マッチング等

個別活動・自由遊びでの支援

パズル・ブロック・積み木・タンگرام等の造形物を使った遊び

個別活動・自由遊びでの支援

プリント学習

文字・数・計算・時計の読み方等各自にあった問題を個別療育で行っています

④ 言語・コミュニケーション

【ねらい】

- 言語の形成と活用
- 言語の受容及び表出
- コミュニケーションの基礎的能力の向上
- コミュニケーション手段の選択と活用

【支援内容】

●言語の形成と活用

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。

●受容言語と表出言語の支援

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。

●人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

●指差し、身振り、サイン等の活用

指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

●読み書き能力の向上のための支援

発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

●コミュニケーション機器の活用

各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

●手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

きっぷプラスで行っている支援プログラム

発語療育（個別療育・グループ療育での支援）

- ・お口体操（音楽に合わせて行い口周りと言の筋肉をほぐして鍛えます。嚥下と鼻呼吸にも良い効果が期待できます）
- ・毎月テーマを決め発語のトレーニングを行います（声の大きさ・挨拶・2語文・自己紹介・早口言葉等）
- ・ことばスゴロク（単語の数を増やす効果があります）

絵本の読み聞かせ・紙芝居（個別療育・グループ療育・レクリエーションでの支援）

音読支援（個別療育・グループ療育での支援）

ことば・文字・言葉を用いたゲームや遊び

（個別療育・グループ療育・レクリエーションでの支援）

図書館（施設外活動での支援）

好きな絵本や本を選び静かに読むことを支援します。

自分の気持ちの発表（グループ療育での支援）

帰りの会では1日の振り返りを行いその日の感想や気持ちを皆の前で発表します。

⑤ 人間関係・社会性

【ねらい】

- ・他者との関わり(人間関係)の形成
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加

【支援内容】

●アタッチメント(愛着行動)の形成

人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。

●模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

●感覚運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

●一人遊びから協同遊びへの支援

周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

●自己の理解とコントロールのための支援

大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。

●集団への参加への支援

集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。

きっずプラスで行っている支援プログラム

ごっこ遊び（グループ療育での支援）

- ・駄菓子屋さんごっこ（子どもたちがそれぞれお店屋さんとお客さんになり模擬硬化を使ってお買い物をします）

ルールのあるゲーム（グループ療育・レクリエーションでの支援）

- ・遊びを通し順番やルールを守ることを覚えます。中高生はグループのリーダーやサブリーダーを担当し皆をまとめることを覚えます）

その他のソーシャルスキルトレーニング（個別療育・グループ療育・施設外活動での支援）

- ・お出かけ支援・お買い物支援・就労見学・ボランティア活動・社会科見学・季節の行事他

移行支援

地域社会で生活する平等の権利の享受と、地域社会への参加・包容（インクルージョン）の考え方に立ち、障害の有無にかかわらず、全ての子どもが共に成長できるよう、障害のある子どもに対する「移行支援」を行うことで、可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようになっていくとともに、同年代の子どもとの仲間作りを図っていくことが必要である。また、児童発達支援においては、障害のある子どもの発達の状況や家族の意向をアセスメントし、地域において保育・教育等を受けられるように保育所等への支援を行う「後方支援」の役割が求められている。

(1) ねらい

- ・ 保育所等への配慮された移行支援
- ・ 移行先の保育所等との連携（支援内容等の共有や支援方法の伝達）
- ・ 移行先の保育所等への支援と支援体制の構築
- ・ 同年代の子どもとの仲間作り

(2) 支援内容

- ・ 具体的な移行を想定した子どもの発達の評価
- ・ 合理的配慮を含めた移行に当たっての環境の評価
- ・ 具体的な移行先との調整
- ・ 家族への情報提供や移行先の見学調整
- ・ 移行先との援助方針や支援内容等の共有、支援方法の伝達
- ・ 子どもの情報・親の意向等についての移行先への伝達
- ・ 併行通園の場合は、利用日数や時間等の調整
- ・ 移行先の受け入れ体制づくりへの協力
- ・ 相談支援等による移行先への支援
- ・ 地域の保育所等や子育て支援サークルとの交流